



前老神温泉協会長
金子充さん

町おこしや全国PR
修復で気持ち新たに

みこしによって色が違うので、色の出し方に神経を使います。修復してきれいにすると、新たな気持ちで担ごうと身も心も引き締まります。先代の思いを引き継ぎ、これからも町おこしや全国へのPRに力を入れていきたいです。



昭和30年代の大蛇みこし



1 仲良く列を組んで、和気あいあいと作業を進める 2 うろこの輪郭に色を付ける女性の協会員 3 コロコロとローラーを転がしながら笑顔を見せる

保存され、全て老神温泉観光協会員の手作りです。
フェスティバルの約2年前、大きなみこしを作ってギネスに登録しようと、同協会は108の煩惱を除くことを願って突く除夜の鐘にちなみ、108に挑戦。これを聞いた観光分野の研究を行う日本交通公社の薦めで、フェスティバルへ参加しました。
3年に1度、みこしの修復作業を行い、今年は108の蛇みこしを含む2体の作業を進めています。同協会員は利根観光会館で夜2時間、傷んだ頭や胴体にペンキを塗り、穴が空いた部分をふさぎます。同協会長の萩原忠和さんは「年数の長いものは35年以上たつが丈夫。自分たちが担ぐからこそ愛着が湧き、大事にしています」と話します。
「大蛇まつり」は90年以上前に始まり、「大蛇みこし」は昭和30年頃から担がれています。昨年は新型コロナウイルスで祭りは中止。今年も状況を見ながら開催を検討しています。祭りや地域を担う世代の確保が厳しい中、老神から離れても、祭りに参加するために故郷に帰ってくる人も多いそう。思い出や記憶が懐かしく、祭りが皆の思いをつなぎ合わせているかのように感じられます。後継者を作り、いつになっても祭りを地域の伝統として残していけるよう、修復作業に思いを込め、自分たちの大事な地域を守り続けています。



特集 修復作業に思いを込めて

夢のハワイで蛇まつり

ヘビが存在しないハワイに突然現れた老神温泉の「大蛇みこし」。国境を超えて文化交流をするまでになった「大蛇みこし」は、さまざまな挑戦をしながら、地域に根付き歴史を刻んできました

問合せ 老神温泉観光協会 ☎ 56-3013



YouTube



現地ハワイの学生さんと「セイヤ、セイヤ」でパチリ

常夏のハワイからは想像できない巨大な蛇のみこし。2000年3月、老神温泉のシンボル「大蛇みこし」がホルルフェスティバルに出現し、地元の人と共に盛り上げ、大きな注目を浴びました。
練り歩いたのは、ワイキキのメインストリートのカラカウア通り1.4キロ。大蛇みこしはどこでも誰でも担げることが特徴で、担ぎ手の多くは現地で募った学生などのボランティアでした。学生らは見よう見まねで担ぎ、「セイヤ、セイヤ」と声をそろえて通りをジグザグにゆっくりと練り歩くにつれ、肩にかかる重さにも慣れて気持ちも高揚します。観客は初めて見る大きなみこしと、多くの学生が共に担いでいる光景に驚きを超え、歓声を上げていたといいます。みこしの先頭で最後まで踊り続けた人も多く、別れのときには「来年も来て」と涙。
ハワイ遠征は大成功。老神の祭りが国境を越え、心一つになってみこしを担いだことは、老神の誇りであり、忘れ得ぬ記憶として新たな歴史を刻みました。
大蛇は赤城山の神の化身。温泉で傷を癒やし、日光二荒山の神の化身である大ムカデを追いつたと伝えられていることから、この周辺は「追い神」と呼ばれ、老神温泉の名の由来となっています。大蛇みこしは毎年5月、温泉の守り神に感謝する「大蛇まつり」で使われます。現在は7体

5 高島屋に白蛇みこし登場



2019年7月、高崎高島屋と老神温泉の企画で、デパート内を白蛇が練り歩くとお客さんは大にざわい

4 河原で露天風呂



藪原ダム竣工前(昭和39年頃)は、河原から沸くお湯で入浴を楽しめ、対岸に架かる橋も多く見られました

3 108メートルみこし ギネスへ



平成25年に大蛇みこしがギネスに登録。実物のアオダイショウをモデルにしています

2 子どもみこし 先頭は上級生



いつの時代でも先頭は小学校6年生が担ぎ、下級生をリード。仕切り方は時代によって違うとか

1 ハワイの学生 太鼓を披露



ハワイ遠征では、現地ボランティアの学生が先頭の太鼓を。徐々に上手になり、共に楽しく盛り上がりました

老神温泉びっくり情報
TOP5



老神温泉の知られざる情報を、老神温泉観光協会会長がランキング